

# 図書館だより 10月号



2学期中間考査も終わり、皆さん一息ついていることと思います。  
過ごしやすい、読書にふさわしい季節になってきました。  
今月10月27日から11月9日までの2週間は「読書週間」となっています。この機会に、朝読書以外にも本を手にとってみてはどうでしょうか。



**ラストページまで  
駆け抜けて**

**2020・第74回 読書週間**  
10/27～11/9

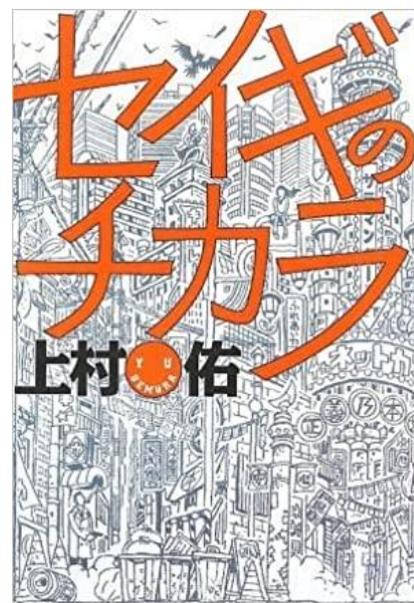


## 〈新任の先生より〉

宮内 大知先生 (数学)

私は、上村佑さんの「セイギのチカラ」という本を紹介します。小さいときから漫画をたくさん読み、活字のみの本を避けてきた私が最後まで楽しみながら読むことができたのが、この「セイギのチカラ」でした。

この本は、「超能力を持った人が協力してテロリストと戦う」というよくある設定のお話です。それでも邪道を好む私がこの本に惹かれたのは、所々で王道を外れていたからです。例えば、“超能力”ということ、皆さんはどんな力を想像しますか？——物を浮かしたり、遠くまでテレポートしたり、動物と話したりと、様々な力をイメージすると思います。これらの力は、この本にも登場します。しかし、「念力でティッシュを5ミリ浮かせた」など、あまりにもショボい超？能力として出てきます。さて、そんな能力を使ってどのようにテロリストと戦うのでしょうか。気になる人は、ぜひ読んでみてください。読書が苦手な私が胸を張っておすすめできる1冊です。



## 〈購入図書を紹介〉

今年度購入した図書の中から一つを紹介します。一つと言っても一冊ではありません。

高田郁さんによる日本の時代小説シリーズで、全10巻から成る『みをつくし料理帖』です。

「図書館だより 4・5月号」で市川校長先生も紹介されていたとおり、これまでも2回テレビドラマ化されています。特に、2017年及び2019年に黒木華さん主演で連続ドラマ化されたものは、皆さんの中で視聴した方もいるのではないのでしょうか。今年10月からは映画化されて全国公開もされています。

物語は、江戸に出てきた大坂出身の料理人・漣（みお）が、東西の味の好みや水の違いに苦心しつつも徐々に道を切り拓き、料理を通じて人を幸せにしていく姿を描くものです。

2冊は以前から本校図書室にありましたが、今年度は新たに残りの8巻と、作中に登場しないレシピアや漣の働く「つる家」の間取り、著者のエッセイ、漣と幼なじみの野江（のえ）の子供時代の短編「貝寄風」などが収録されている『みをつくし献立帖』、漣が大坂へ戻った後の登場人物たちのその後の物語を描く『花だより みをつくし料理帖 特別巻』の合わせて10冊を購入しました。

江戸時代が舞台となっていますが、登場人物も現代の人と同じ感覚を持っていて親しみやすく、読みやすい作品となっています。本編は10巻ありますが、順番でなくても楽しめる作品となっています。読書の秋である今、ぜひ手に取って読んでみてはどうでしょうか。



2学期も生徒の皆さんからのリクエストにこたえて、新しい図書を購入するようにしています。リクエストが多くて全員の希望には沿えないこともありますが、読みたい本があれば所定の用紙に記入して、図書館カウンターにある「リクエストBOX」に入れてください。

## 〈月間図書貸出冊数（9月）〉

〈クラス別〉

9月1日～9月30日

1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
1冊	13冊	3冊	2冊	1冊	1冊	8冊	14冊	2冊

〈個人別〉

1位 11冊 宮田 未来（3-2）  
2位 9冊 東海林 茉莉（1-2）  
3位 5冊 飯森 野乃（3-1）